ぐんぐん通信

地域支援センターぐんぐん
福島県立郡山支援学校内
令和2年12月24日発行

「地域における特別支援教育の充実を目指して」

教頭　小林直輝

県内各地域における特別支援教育の充実に向け、県立特別支援学校本校全 15 校に地域支援センターが設置され、本年度で３年目を迎えました。地域支援センターでは、就学前のお子さん、小・中・高等学校の児童生徒、教員、保護者、成人の方から相談要請を受け対応しています。また、本校については、県中地区だけでなく、県北、県南、会津、南会津地区からの相談にも対応しています。私は、昨年度まで県北教育事務所に勤務しておりました。県北地区で、車いすを使用しているお子さんへの相談要請が入ると、本校の地域支援センターに教員の派遣を依頼しておりました。相談の内容によっては、複数教員の派遣を受け、先生方には、お子さんの体についての配慮、障がいからくる学びにくさへの対応、保護者へは、悩み等に関する相談が行われました。相談後に、ほっとした先生方や保護者の表情が印象的でした。今後も、本校教員の専門性の向上を図り、自校教育の充実だけでなく、地域における特別支援教育の充実を目指して、地域支援センターを中心に、力を発揮していけるよう努めてまいります。

関係機関訪問を終えて

教育支援アドバイザー　高坂均

障がいのある子ども達を支える行政・福祉機関と連携を深め、情報を共有するために、県北・県中・県南・会津及び南会津地区の教育委員会（１５か所）や保健福祉機関（２４か所）の計３９か所を訪問しました。お互いのことを知る「顔の見えるつながり」ができ、実際訪問後に関係部署の方から問い合わせがあったり、教育相談につながったりするケースが見られました。

「子どもの学びの場」や「子どもの多様性」を保障し、子ども達が適切な支援を受け、未来の夢が実現できるようにするために、関係機関との連携を一層深めていきたいと考えています。

2学期の「ぐんぐん」～活動報告

～特別支援教育研修会を実施しました～

８月２０日、県内の保育園、幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の教職員や、教育関係者を対象に、特別支援教育研修会を行いました。１００名以上の先生方が参加し、コロナ禍の中ということで、平支援学校に協力を依頼して２会場でのリモート開催としました。

「身体に不自由のある子どもへの教科指導の展開」として、国立特別支援教育総合研究所の北川貴章氏からご講演をいただき、その後希望のあった９名の先生方の個別相談会を行いました。相談内容に応じて、本校教員がそれぞれの専門性を発揮して対応し、日ごろの教育実践を生かした具体的で実践的な話し合いに、大変好評をいただきました。特にAT 機器の活用や保健体育の指導等についての相談が多く、地域のニーズをひしひしと感じた相談会でした。

パラリンピックを応援しよう！

～シッティングバレーボール編～

シッティングバレーボールは、オランダで考案されたスポーツです。動きの少ない“シットボール”と“バレーボール”を組み合わせて作られたのがシッティングバレーボールの始まりです。

シッティング（座ったままで、または座ることの意）バレーボールは、床に臀部（でんぶ）の一部が常に接触したまま行うバレーボールで、サーブ、ブロック、アタックなどで立ち上がったり、飛び跳ねたりすると反則になってしまいます。

1980 年にシッティングバレーボールはパラリンピックの正式種目となり、そのスピード感と興奮が選手だけでなく見る側の人にも伝わり一緒に楽しめるようになりました。

障がい者と健常者が高い技術をもち得ながら、共に運動できるスポーツ競技としてさらに成長する可能性をもっています。